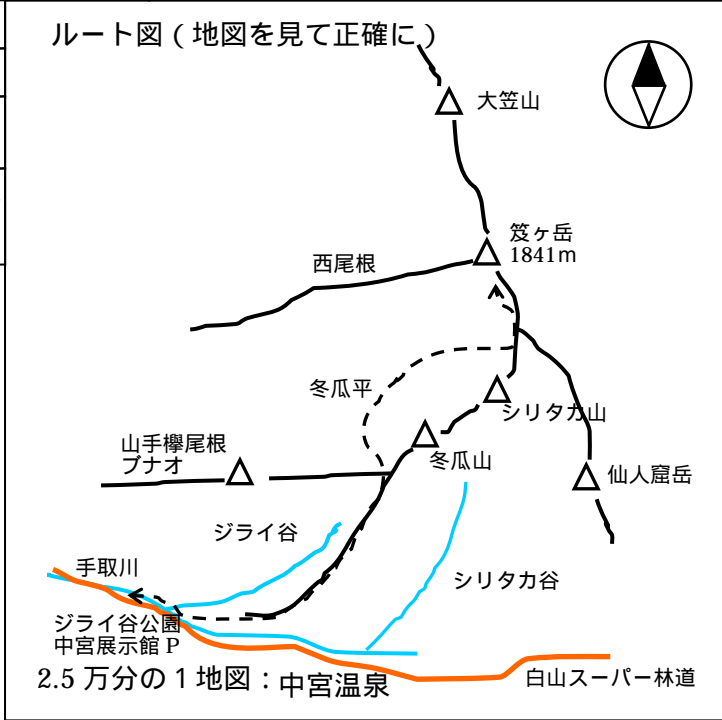


4 月 度 例 会 山 行 報 告 書		報告者	渡辺勝利	参 加 メンバ-	CL ; 藤田健治 SL ; 塚本英吾 M ; 渡辺勝利 岡田 晋 計 4 名
個人		報告日	04 / 24		
山 域	両白山地	山行日	07 年 04 月 20 日 ( 金 ) ~		
山 名	笈ヶ岳 ( 1841m )		07 年 04 月 21 日 ( 土 )		

山行目的	春山登山 ( ピークハンティング )	コースタイム ( 天候 : 天気図記号 )
------	--------------------	-----------------------

配布先  
集会:12  
山行: 1  
リ-ダ-  
原紙: 集  
会担当者



04/21 小雨後曇り
04:20 起床
05:20 駐車場発
05:50 野猿広場
07:15 大岩
09:40 ブナオ尾根分岐
10:05 冬瓜平
11:40 稜線コル
13:15 笈ヶ岳頂上
40
14:35 稜線コル
15:35 冬瓜平
16:15 ブナオ尾根分岐
17:15 大岩
18:45 野猿広場
( アクシデント発生 )
20:20 駐車場着
21:05 駐車場発
04/22
01:30 安城厚生病院着

山行報告 深田久弥氏が「日本 100 名山」に入れたいと切望された笈ヶ岳は白山の北方に位置し、藪深く積雪期のみに登山が許されると言われている。この山の登頂を目指して 3 年、ようやく大望が叶った喜びもつかの間、下山途中にアクシデントに見舞われ「九仞の功を一簣に虧く」結果となってしまったことが残念でならない。この顛末は別の機会に詳細を述べることにし、とまれ今回は登山記録として残すことにする。

前夜 20 時刈谷発、東海北陸道から油坂トンネルを抜け、勝山、白峰経由で 24 時にジライ谷公園中宮展示館前の駐車場に到着。1 台も停まっていない駐車場内にテントを張りすぐに眠りに付く。明くれば雨予想に反して曇り空である。今日の内に往復できそうな天気具合に 3 年目にして漸く登るチャンスがきたことに奮い立ち、急いで身支度を整え出発。展示館裏手の水平な遊歩道からトンネルを 2 つ潜り野猿広場に到着。ジライ谷の徒渉を簡単にこなし、いよいよ予てより聞いていた登りに掛かるがいきなり評判どおりの急登となる。フィックス、木の根、岩角をステップ、ホールドにしながらの岩登りさながらの登攀が延々と続くがブナオ尾根分岐手前でややならかな雪山となり一息つく。このあたりから目指す笈ヶ岳が遥かかなたに鋭角な姿を現す。分岐から雄大なスケールの冬瓜平をトラバースし、稜線のシリタカ山のコルに上がれば後は稜線通しにひたすら歩くだけだ。風もなく、展望も開けて気持ちのよい稜線歩きの末に漸く頂上に辿りつき、登頂を祝い全員で硬く握手を交わす。小さな頂上に雪はなく、しばらく感激に浸った後、登りと同じルートを下山。

上りはあれほど苦労したルートも下りは早い。快調なペースで冬瓜平を越えて最後の難関の長い急勾配をより慎重に下りきる頃には、何時しか夕闇が迫っていた。先行した渡辺、岡田がジライ谷を徒渉し、野猿広場で待機しているところへ後続の塚本、藤田が到着し、沢を徒渉中に 1 名が岩に滑り、転倒するというアクシデントに遭遇し、まさに「好事魔多し」の幕引きとなった。

リーダー所見 笈ヶ岳の計画提案から 3 年をへて念願の頂上にたどり着き、4 人 P と単独行の登山者と頂上付近ですれ違いエールを交わした。14h ロング行程の途中でビバークの考慮もしたが翌日の荒天をきらい下山を決めた。登降ペースは終始速いとはいえないが暗闇迫るなかで気持ちに焦りが出ていたため、飛び石の時にバランスを失い上記の結果となった。登頂成果の割に幾つかの反省点もあり詳細は今後の事故報告書に記す。

フリースペース  
山の紹介・スケッチ・エピソード・その他自由に



ブナオ尾根分岐付近より笈ヶ岳を望む

確認 (リ-ダ-)  
藤田  
07/04/26  
作成 (報告者)  
渡辺  
07/04/24